

農業担い手メールマガジン（第96号）

インデックス

現場の皆さんへ ～農業経営とマーケティング～

農業経営のステップ・アップを短期間で学ぶ

～農業者大学校で短期集中セミナー等を開催中！～

農業担い手経営相談コーナー

～経営改善計画の面積目標を超過した場合の農業経営基盤強化準備金制度
の利用について～

現場の皆さんへ

～農業経営とマーケティング～

猛暑のさなか、お仕事お疲れ様です。

さて、今回の話題は農業経営におけるマーケティングの取組についてです。「マーケティング」という言葉は、最近では聞いたことがあるという方も増えていると思いますが、農業の世界ではまだまだ馴染みが薄く、中には「販売」と混同していらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

マーケティングとは、ごく簡単に言えば、商品である農産物を「売る」ための一連の工夫のことを指します。具体的には、消費者の需要に応じた「商品開発」や商品売る際の「値決め」の問題、商品をどういった経路で売るかという「販路」の問題、商品を買ってもらうための「宣伝活動」などがマーケティングの内容と言われています。これらのことからお分かりのように、マーケティングを理解するためには、生産者自身が「消費者の視点や発想」に立つことが重要なのです。

最近では、農産物を消費者に直接販売していらっしゃる方や農産物の加工を始める方も増えました。こうした取組を行う場合にマーケティングの考え方は不可欠です。まず、その商品をどんな消費者に買ってもらうのかを明確にしておかなくてはなりません（品質重視の人、価格重視の人、安全重視の人など）。その上で、消費者の好みに合うよう商品の形や大きさ、風味などに工夫がいるほか、包装する個数や大きさ、パッケージのロゴなどにも気を配る必要があるでしょう。また、宅配便で送るのか、直売所に置くのか、スーパーへの商品陳列を念頭に置くのかによっても消費者へのアプローチの仕方は大きく異なります。さらに、対象とする消費者と商品が決まれば、どんな広告・宣伝が有効かも見えてきます。

皆さんの中には、直接販売や加工などをしていないので、マーケティングなど関係ないと思っていらっしゃる方はいませんか。農協や生産組織などに出荷されているとすれば、商品全体の数量も増えますから、マーケティングが一層重要な意味を持つのです。農協等の「売る」工夫をしっかりとチェックして、マーケティング能力を高めていくよう、皆さんから働きかけていくことが必要になってくるのです。

皆さんも、自らが生産した農産物の「マーケティング」について、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

ご意見・ご質問は下記へお願いいたします。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=120

農業経営のステップ・アップを短期間で学ぶ

～ 農業者大学校で短期集中セミナー等を開催中！～

茨城県つくば市にある国の農業者大学校では、農業を実践していらっしゃる経営者を対象に、経営力アップを目的とした「専修科」を設置しました。農業経営の一層のステップアップを考えていらっしゃる方は、是非とも、この「専修科」に応募してみてくださいはいかがでしょうか

専修科では、国の試験研究機関と連携した先端技術や先進的な経営管理手法を学ぶために、各分野の大学教授の講義、先進地視察などを取り入れたコースを農閑期に集中的に開講します。農業経営を行いながら、無理なく、実践的に学ぶことができるのがこの専修科の特徴です。

受講資格は、農業経営の発展・効率化に意欲を持つ農業者、農業法人構成者等であれば、年齢・学歴に関係なくどなたでも応募が可能です。また、専修科には「セミナーコース」と「科目履修コース」があり、「セミナーコース」では、現下の農政の重要課題をテーマに次の3コースを用意しています。

ア 先端的水田農業経営戦略コース

イ 先端的飼料自給型畜産コース

ウ 先端的花き経営発展コース

各コースとも、2泊3日×3回または4泊5日×2回の宿泊を伴う教室講義と約半年間の在宅学習で構成されており、受講料は一人当たり通年で3万円です。最初の教室講義は平成20年10月から12月の間に予定されており、教室講義の期間は、1泊1,200円程度の研修宿泊施設が利用可能となっています。各コースとも定員は先着順の20名です。

一方、「科目履修コース」は、本科の約70科目の通常講座のうち、学びたい教科を1単位ずつ選択して受講することができるコースです。

いずれのコースとも入学試験はなく、本年7月1日から、書類審査を行った上で順次入学を許可することとなっています。

【お問い合わせ・資料請求先】

農業者大学校企画管理室企画チーム

〒305-8523 茨城県つくば市観音台2-1-12

電話：029-838-1025 FAX：029-838-1059 E-mail：noshadai@naro.affrc.go.jp

詳しくは、農業者大学校ホームページをごらんください。

<http://farmers-ac.naro.affrc.go.jp/>

農業担い手経営相談コーナー

～ 経営改善計画の面積目標を超過した場合の農業経営基盤強化準備金制度の利用について～

Q．農業経営基盤強化準備金制度を活用した農地購入を計画していますが、現状の面積規模が農業経営改善計画の面積規模目標を超えています。この場合、準備金の活用は可能でしょうか。また、どのくらいの面積まで活用できますか？

A．農業経営基盤強化準備金制度は、農業経営改善計画に定める農地等の規模拡大の目標面積の範囲内で、準備金の積立てや農地取得を進めるための制度です。

既に農業経営改善計画における農地の規模拡大の目標面積を超えた状況の中で、更なる農地の取得を行おうとする場合は、農業経営改善計画の変更が必要です。

お尋ねのケースは、計画のうち、少なくとも規模拡大の目標のうち「所有地・借入地に係る面積」や、「規模拡大を行う作目の作付面積」の部分について変更する必要があると考えられますが、その他の関連する目標についても必要があれば変更していただいても結構です。これらの計画変更の申請を市町村役場でしていただければ、本準備金制度の利用が可能です。

また、農業経営改善計画の規模拡大目標面積の範囲内であれば、準備金制度を活用して取得する農地面積に制限はありません。

ご質問・ご相談は下記へお願いいたします。

https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=120

編集後記

夏の暑さが体にこたえる季節になりましたが、皆さんお元気でしょうか。気象庁によれば、8月の平均気温は東海以西の地域で平年より高い確率が60%、北海道・東北でも40%と予報されています。全国的に、まだまだ暑さ対策は予断を許さない状況のようです。

果菜類などはこれからが収穫の最盛期と思いますが、是非ともご自愛下さいますようお願いいたします。

(S)

電子出版：農業担い手メールマガジン

発行日：毎月2回発行

発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：鈴木

農林水産省担い手ホームページもご覧ください！

～担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～

<http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html>

このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから。

<http://www.maff.go.jp/ninaite/mailmagazine.html>

このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから。

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>